



「お糸が淵」
 かけ落ちしてきた江戸浅草蔵前の反物問屋喜兵衛の娘、お糸と手代の新吉が長旅の果てに磊々峡まで来て、一休みした時、名取川の深淵の流れに見とれていた娘のお糸を突き落とし、持参してきたお金を奪い逃げた。その後、この淵にお糸の幽霊が出るようになった。「新さん、憎らし〜」の声が磊々峡に響き、村人から恐れられるようになったという。
 手代の新吉は、しばらく逃げ回っていたが、いつのまにか足は秋保へと向き、ついには磊々峡に身を投じてしまった。そしてその身はお糸が落された大淵に流れ着いたんだと。



ここでご案内するのは、湯元地区の昔話を巡る小さな旅です。

千年を超える秋保温泉のいわれには、意外なエピソードが・・・塩を含んだ温泉で心身ともにほっこりと温まったら、湯神社へお参り。「おなごわらし」に会えるかも！

覗橋の東西約2kmにわたる磊々峡。断崖から見える群青色の深い淵からは、様々なイマジネーションが湧いてきます・・・男女の情念が渦巻く「お糸が淵」。見事、蛇に姿を変えて殿様のもとに帰ってきた「宝刀瀬登丸」。

磊々峡の陰しさ、ほの暗さは、不思議で神秘的な物語を育んできました。

小さく、ささやかな旅ですが、湯元の昔話を通して、秋保温泉と磊々峡の魅力をお楽しみください。



秋保 いってみっぺ

湯元の民話

いってみっぺ 秋保 湯元の民話

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
 連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
 秋保市民センター (022-399-2316)

往古千年の温泉に、語り継がれる物語がある。

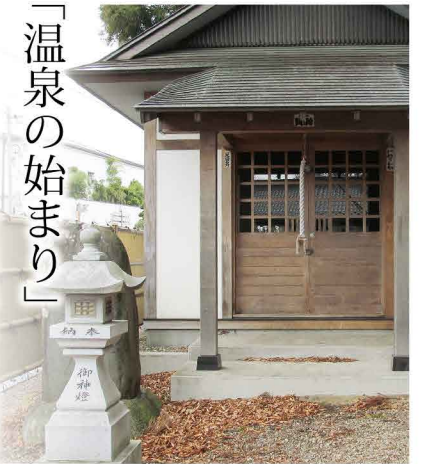
自然、歴史、喜び、悲しみ――

湯元の民話ゆかりの地を歩いて巡る。

掲載されている情報は、平成28年5月現在のものです。

訪れてみたい秋保
 二口街道ツアー 62

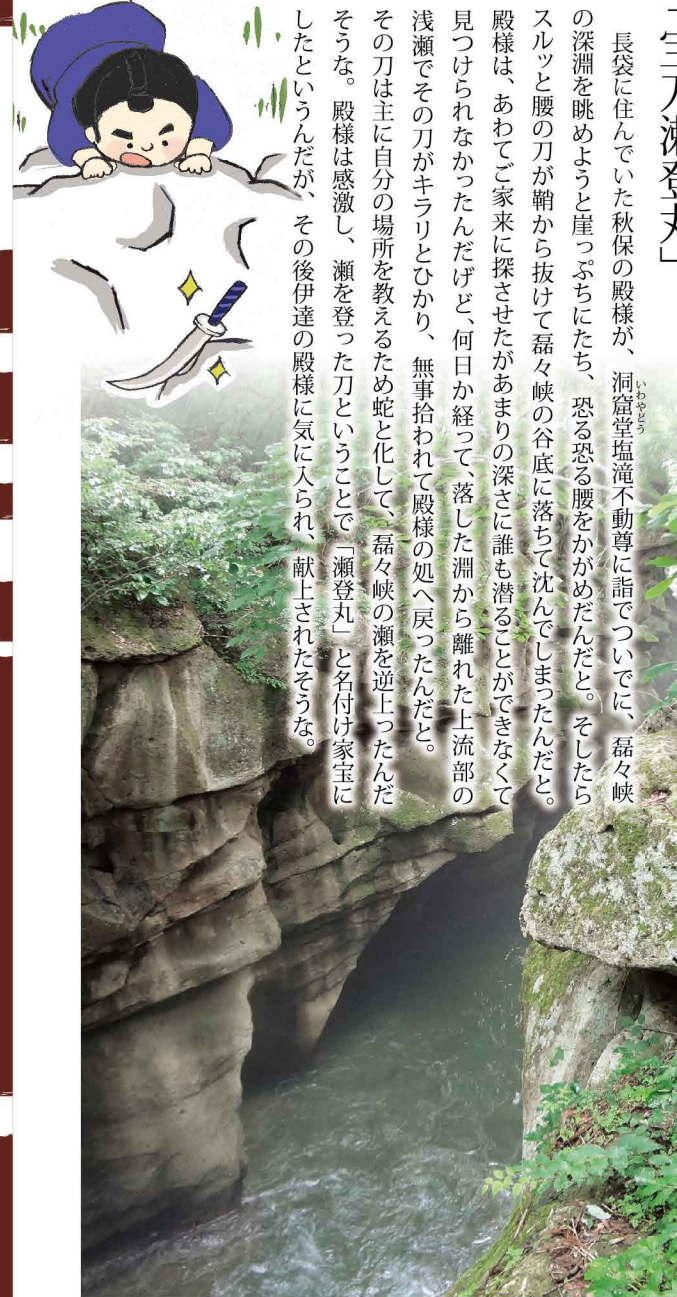
No.2



「温泉の始まり」

昔々、塩を積んだ牛におなごわらしが乗って谷地（湿地）を渡ろうとしたところ、牛もろともその谷地に沈んでしまったんだと。それならそこから湯気が立ち上って、温泉が湧き出たそうなの。それから秋保温泉は、塩分のある身体に良い温泉だと云われ、多くの人が温泉さ入りに来るようになったんだと、そしてそのおなごわらしは、湯神様の化身だったと云われているんだとさ。

「宝刀瀬登丸」



長袋に住んでいた秋保の殿様が、洞窟堂塩滝不動尊に詣でついでに、磊々峡の深淵を眺めようと崖っぷちに立ち、恐る恐る腰をかがめたんだと。そしてスルトと腰の刀が鞘から抜けて磊々峡の谷底に落ちて沈んでしまったんだと。殿様は、あわてご家来に探させたがあまりの深さに誰も潜ることができなくて見つけれなかったんだけど、何日か経って、落した淵から離れた上流部の浅瀬でその刀がキラリとひかり、無事拾われて殿様の処へ戻ったんだと。その刀は主に自分の場所を教えるため蛇と化して、磊々峡の瀬を逆上ったんだと。そうなの。殿様は感激し、瀬に登った刀ということで「瀬登丸」と名付け家宝にしたというんだが、その後伊達の殿様に気に入られ、献上されたそうなの。



秋保の民話

秋保にはたくさんの民話が残っています。口伝の民話の世界でも伝説や世間話、昔話などがありますが秋保の場合は、実際にあったことを題材にしたお話が多いようです。

地域の人々の生活・習慣などを背景に、喜びや悲しみ、戒めなどが映し出され、共感を持って受け止められてきたため、長年語り継がれてきたのだと思われます。

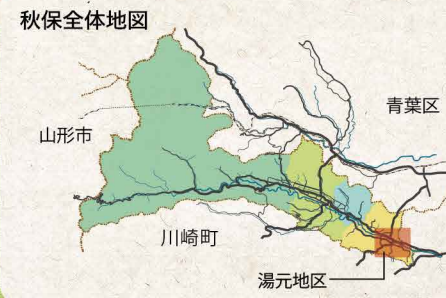
湯元地区のほかにもさまざまな民話が広がっています。秋保での民話の旅・・・その舞台を訪れてみませんか。

(境野地区) ・板嵐峠の狐岩 ・清四郎淵 ・取り上げ坂

(長袋地区) ・さかさ竹 ・清水窪 ・鬼屋敷 ・おせん地蔵

(馬場地区) ・小滝沢橋 ・木食知足上人 ・弘法清水
・上人洞 ・釜淵のカッパ ・姉妹滝と男岩
・風の洞 等々

湯元の民話ゆかりの地を歩いて巡る



1 秋保・里センター

秋保温泉をはじめ秋保地区の観光情報・地域情報・宿泊所などを知ることができる施設。レンタサイクルやトイレもあるので、民話めぐりの基点に最適です。

秋保の民話の伝承活動をしている「秋保語りの会」のメンバーによる民話語りも開かれています。秋保での民話の旅の始まりは、まずはここで民話語りを聞いてからおすすめ。ぜひお立ち寄りください。
(毎月第2第4日曜日 10時30分～11時30分)
電話: 022-304-9151



2 楽壽園の碑

古くから、身体に良い温泉として各地から湯治客が訪れるようになった秋保温泉でしたが、藩政時代後半、一時大変な危機がありました。その物語を記している石碑です。

地震で突然途絶した温泉の再湧出に奔走、苦勞の末これを成功させた湯守「寿右エ門」の功績をたたえています。

また併せて類まれな景観美を誇る磊々峡(らいらいきょう)を称賛し、温泉療養との連携・滞在を薦めています。



3 ホテル佐勘資料室

民話『温泉の始まり』の物語を由縁とする秋保温泉。藩政時代、その中核として代々湯守を担った佐藤家(旧屋号「北屋敷」)の歴史資料が展示されており、当時の様子を知ることができます。
入館は無料、フロントで話をすればどなたでも見学できます。



4 名取の御湯碑・湯神社

秋保温泉の由来を伝える「名取の御湯」碑は、もう一つの『温泉の始まり』を示す遺構で、千年を超える歴史を伝えています。
その概要は、当時の大和の国、欽明天皇(在位531年～539年)が皮膚病にかかった折、秋保温泉のお湯が遠く都まで運ばれ、沐浴したところ数日で全快したことから、天皇御利用の湯であることを意味する「名取の御湯」と称されるようになりました。

正面の湯神社は、秋保温泉の守護「神」で、『温泉の始まり』の物語では、主人公であるおなごわらしに扮したといわれています。

藩政時代後半、地震で途絶えた温泉の復活に奔走する湯守寿右衛門の祈願に因り、見事再湧出を叶えたことで、以来、ご利益ある社として、また地元をはじめ温泉を訪れる人々のパワースポットとして、参詣者が絶えない場所です。



5 秋保温泉共同浴場

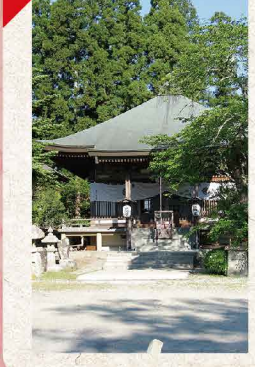
秋保温泉に唯一ある共同浴場で、大きなホテルが立つ温泉街の一角に静かにたたずんでいます。

『温泉の始まり』を伝える物語は、親子や家族で温泉を利用する庶民の間から生まれたものと云われ、共同浴場は、その流れを残す場所でもあります。現在の浴場は小さくなりましたが、お湯は温泉通から称賛を受けるほどに効能のある湯として知られ、とにかく体が温まる温泉として、わざわざ遠くから通う入湯者も少なくありません。

営業 毎月第4水曜日休み(8時～21時30分)
料金 大人300円 小人200円 電話 022-398-2774



6 泉明寺薬師堂



秋保温泉の守護「仏」を祀る薬師堂。洞窟堂山(塩滝不動尊)由縁の歴史をもち、本尊に薬師如来を祀っています。
『温泉の始まり』が基となる秋保温泉の泉質は塩分が多く、藩政時代から湯治の効能が知られていました。時の藩主の生母も入湯して快癒したことから、藩の全面的な支援で堂宇が建立されました。以来、入湯客の病氣平癒等の祈願所として、多くの参詣者を集めています。

7 磊々峡

民話『宝刀瀬登丸』・『お糸(くめ)が淵』伝説誕生の地。名取川が造り上げた景観豊かな奇勝で、秋保温泉の歴史などを伝える古文書にも、「名取の御湯」の近くにある雄大な名勝地であると記され、一帯を総じて「観淵(のぞきぶち)」と称し温泉来訪の際は、ぜひとも見学されたい場所として紹介されています。

観淵の東西約2kmにわたり「奇面巖」「時雨滝」「八間巖」「三筋滝」「鳴合底」「猪飛巖」「天斧巖」「不動淵」などの名所が、人々の暮らしの中で名づけられ、特徴ある景観を成しています。

谷深い巖の断崖から眼下を見下ろすと、群青色の深淵や巨岩の間を白波を立てて流れる様子を見ることができ、人々は感動と畏敬、或いは底知れぬ恐怖を覚えつつ、「一度は覗いて見たい」「だれかに教えたい」と感じていたものと思われます。

『お糸が淵』は、磊々峡の東端、最も深く長い淵となる洞窟堂塩滝不動尊の正面南に位置しているため、俗に「不動淵」とも称しています。いにしへの記録には「紺碧の淵」とか、「鬱蒼ドロリとした鉛色の淵」、「別世界へと誘う場所」などと表現されています。



洞窟堂塩滝不動尊

藩政時代前半、民話『宝刀瀬登丸』伝説の主人公、秋保直盛が参詣に赴いた不動尊。

秋保石の採掘場となっている洞窟堂山の南麓にあり、凝灰岩の岩窟に作られた姿は、古代期の崇拝所らしい趣を備えています。秋保石が採掘される大正期以前は、山全体が慈覚大師円仁仲かりの霊場として、厚い信仰を集めた場所と伝わり、秋保氏をはじめとする郷土人たちも、温泉来訪や二口街道往還の際は、参詣を重ねたものと思われる。

岩窟に塩分が含まれていることが名称の由来と伝わり、民話『温泉の始まり』に出てくる塩との関わりを伝える遺構ともなっています。

鳥居をくぐる独特の岩肌を持つ岩窟となり、本尊塩滝不動尊ほか数基の石仏が安置されていますが、許可なく立ち入ることはできません。

